各地区業況アンケート結果（29年１月調査分）

（２９年１月２５日）　全国鉄鋼販売業連合会

１月２４日締切で、当会役員１５１名に対しこのアンケートを行ったところ６７名の回答があり（回答率４４．４％）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※　DI＝（A×2＋B×1－D×1－E×2）÷総回答数×100、(数は回答実数)

１．　売上は各社、斑模様

問１】貴社の１２月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A.10%以上増	B.5%以上増	C.ほぼ横這い	D.5%以上減	E.10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	14	9	20	15	9	67	62
比率	21%	13%	30%	23%	13%	DI+6	DI+42
売上金額/前年同月比	13	11	21	13	7	65	62
比率	20%	17%	32%	20%	11%	DI+15	DI+19

２．　赤字企業２割強に増

問２】貴社の１２月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか

	A.黒字	B.若干黒字	C.収支ﾄﾝﾄﾝ	D.若干赤字	E.赤字	計	前回
企業収益状況	19	20	12	14	1	66	62
比率	29%	30%	18%	21%	2%	DI+64	DI+119

３．　年明け後も販売状況は変わらず

問３】貴社の営業窓口から見て１月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A.かなり増加	B.やや増加	C.ほぼ横這い	D.やや減少	E.かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		8	29	7	4	48	−15	−9
民間建設向		12	34	8	2	56	±0	±0
自動車向		3	22	3		28	±0	−19
その他需要家向		15	35	8	1	59	+8	±0
仲間取引	1	10	32	9	2	54	−2	+4
計	1	48	152	35	9	245	−1	−3
比率		20%	62%	14%	4%			

４．　今後、微増程度に推移

問４】貴社における向う２月から４月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？(答)

	A.増加	B.微増	C.ほぼ横ばい	D.微減	E.減少	計	前回
短期需要動向予測	3	31	25	5	2	66	62
比率	4%	47%	38%	8%	3%	DI +42	DI +39

５．　酸洗鋼板、 表面処理鋼板、 品薄感鮮明に

問５】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種別	A	B	C	D	E		1月
ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	ＤＩ
-36	-39	-48	-32	-13	-28	-32	-27	-30	-24	-38	-28	鉄筋用丸鋼		3	26	4	3	36	-19
-21	-30	-21	-30	-21	-23	-15	-15	-15	-14	-17	-11	構造用丸鋼			36	2		38	-5
-12	-15	-22	-23	-11	-21	-11	-12	-8	-3	-8	-7	平角鋼		1	34	3		38	-5
-10	-22	-10	-34	-7	-16	-9	9	4	16	26	58	Ｈ形鋼	1	14	20	2		37	38
-26	-47	-50	-57	-26	-38	-19	-14	0	4	0	18	コラム		4	20	4		28	0
-13	-17	-19	-28	-12	-19	-10	-8	-10	-10	7	6	小形山形鋼		5	35	4		44	2
-19	-17	-21	-30	-15	-22	-17	-18	-16	-10	7	11	中形山形鋼		8	32	3	1	44	7
-27	-21	-18	-30	-21	-29	-18	-24	-7	-10	3	15	溝形鋼		7	32	3		42	10
-25	-25	-37	-46	-64	-36	-22	-19	-19	-14	-13	-11	軽量形鋼Ｃ形		1	29	2	1	33	-9
-29	-44	-44	-32	-32	-33	-17	-28	-22	-20	-20	-20	軽量形鋼広巾		1	21	2	1	25	-12
-52	-58	-52	-62	-41	-55	-43	-44	-33	-23	-15	4	冷延薄板		11	16	1		28	36
-33	-59	-41	-36	-35	-40	-35	-29	-20	-19	-6	-3	熱延薄板		13	22	3	1	39	21
-44	-62	-53	-62	-46	-50	-53	-34	-27	-22	-7	26	表面処理鋼板	3	15	16			34	62
-57	-69	-61	-63	-45	-48	-48	-29	-27	-22	-18	33	酸洗鋼板	9	17	9			35	100
-38	-63	-54	-47	-32	-30	-23	-22	-24	-23	-9	3	中板	1	16	22	5		44	30
-29	-57	-44	-44	-27	-16	-21	-20	-24	-23	-6	-5	厚板		13	27	5		45	18
-18	-25	-31	-15	-11	-11	-4	0	-13	-5	-7	-11	極厚板		6	13	1		20	25
-30	-22	-29	-25	-30	-11	-21	-17	-14	-11	-8	-14	縞板			31	4		35	-11
-33	-32	-38	-41	-32	-28	-26	-24	-22	-23	-20	-15	中径角			37	7		44	-16
-14	-19	-29	-33	-25	-33	-26	-17	-12	-17	-16	-15	ガス管黒			37	7		44	-16
-20	-24	-26	-31	-27	-23	-31	-25	-16	-15	-17	-13	構造用鋼管			34	4		38	-11
-27	-38	-35	-38	-28	-28	-24	-20	-17	-14	-8	2	計	14	135	549	66	7	771	11

６． 実需の勢い不足で価格転嫁は道半ば

問６】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。（答え）

北海道	A	農業関連は引き続き堅調である。新年度も需要増が見込まれる。民間需要は盛上りに欠けている。
	B	冬場、閑散期にも拘らず、各品種ともに仕入価格が上昇している。得意先に環境説明し、市況を確実に作る必要がある。
東北	A	メーカー、商社の値上げ発表が相次ぐが、ファブに対し値上げがしにくい。オリンピック関連の需要に期待している。回収不備が増えており、予定日より遅くなっている。
	B	今年の東北地区における鋼材需要はジリジリと減少傾向を辿るものと予想される。活況を呈すると思われる首都圏との格差はより鮮明になっている。現在の市場も物件不足で値上げの声に迫力がない。
	C	春以降の物件は見えているが、鋼材値上げは判断が難しい。当社在庫について上手に売っていきたい。
	D	物件が少なすぎて、値戻しにはかなり苦労している。
新潟	A	価格転嫁を進めているが、足元の実需が盛上りに欠ける中、次の更なる値上げと市中のタイト感の無さで簡単にはいかない。
	B	建機、自動車関連に明るさが戻ってきたが、大部分はまだまだである。このような状況で、客先への値上げ要請は難しいがお願いするしかない。
	C	年初からの荷動きはあまり良くないが、例年のことなので仕方がない。但し、需給は改善してきている。メーカーも本気で値上げ表明しているので、雰囲気は悪くない。今後に期待している。
	D	稼動日数にしても１月は厳しいと予想。仕入高にて値上げの説明を丁寧にしている。
	E	メーカーは原料炭の値上げを理由に毎月値上げしているが、今月に入ってから原料炭は４０％位下ってしまった。また、鉄鉱石も下っている。需要のない中、上昇ムードに水をかけられた状態である。
東京	A	仮需もひと通り終り、実需が出てくれば出荷量は維持できる。１～２月の荷動きに注視したい。
	B	メーカー値上げを価格転嫁できずに苦労している。
	C	酸洗鋼板の定尺品を手配するのが非常に困難な状況である。年明けのユーザー需要は落ち着いている感がある。
	D	市況の上昇傾向ははっきりしている。需要家も手配できるものは済ませている。そのため一時的に暇になると思われるが、ぶれずにやらないと採算が苦しくなる。
	E	（薄板）店売りは仮需による見積りが増加傾向である。実需なき市況状況で与信リスクが増加している。仮需が落ち着けば、実需がないので昨年のような小口当用買いへ戻ることになる。今回のメーカー値上げで需要家への価格転嫁が進まなければ、流通にシワ寄せがくる。在庫評価が変わっているだけに加工や製品化されていない仮需には要注意したい。
	F	昨年１２月中旬頃より、出荷量は増加しつつある。今後、熔協品の値上げが本格化していくと思われる。
	G	値上げのお願いが一巡したところで新日鉄住金大分製鐵所の事故があった。８ケ月のスケジュールが発表になるとすぐに引合い案件が前倒れで動き始めた。今後の引受けなどの影響が大いに心配である。

静岡	A	メーカー値上げ幅に販売価格に追いついていかない。収益が大幅に損なわれそうだ。
	B	目に見えない所で、極小業者が何故だかよく分からないまま消え去り、弁護士任せの整理物件が増加している。多額の不良債権の発生は少ないと思うが、明暗の分かれ目は現在のところ「無理受注」によるものである。ある意味、被害者なのかもしれない。大手鉄鋼流通はファブ向けの一次加工、二次加工の対応に追われ、加工量は満杯である。そのため新規案件の準備対策に遅れが発生している。Mグレードファブは５～６月までの加工量を確保している。Mグレード以上のファブは加工賃、材料費などは問題としていない。鉄鋼関連業者において、現在の販売量で５～１０円、価格転嫁していくのは難しいのではないか。
	C	輸送用機器は新車の発売で期待感が出ている。値上げは徐々に浸透してきたが、時間がかかっている。従来なかった品種の引合いが出始め、品薄感が出てきた。
石川	A	仕入は実需を見誤らないように心がけたい。
	B	薄板類の値戻しが急激になってきた。同時に品不足が顕著に感じられる。但し、直近のニュースで石炭、鉄鉱石の値下り傾向が始まったので、今後の動向が心配である。メーカー側の引受けカットが続けば、何とか値戻しは続けられるが、過度な在庫積み増しは危険である。安定に申込みを続ける方が安心だと思う。
富山		前倒し発注も減少傾向。全体的に受注量が弱い。
愛知	A	（鋼管）集購は低位安定という感じで、前年落ち込んだ分の回復は見られない。トランプの政策次第では対米輸出に大きく影響する。鋼製家具の売上は前年比割れが続いている。運動設備の物件が出てきた。当分続くことを期待している。自動車メーカーにより格差が出てきた。前年割れの会社もある。パイプの値上げ、直需、底値の値上げを期待していたが、現状では２月からになる。全体的に需要の盛上りに欠ける。
	B	需要は底堅い。
	C	メーカー値上げが余りに急である。ユーザーまで転嫁は難しい。特に東海地区は自動車などの業界は半期もしくは四半期毎の値決めが通例となっており、余りに急な値動きには追随できない状況にある。メーカーと流通の状況に合わせて時局を見極めることが重要になる。
	D	供給サイドから値上げ圧力が強力にかかっている。メーカーが唱えている通りになっていくとすれば、我々流通が困るのは当然である。買ってくれる先の需要家が価格転嫁に困るだろう。そうなると間違いなく信用問題が発生し、結果、我々流通が困ることになる。スムーズな値上転嫁が望まれる。
	E	年末年始も総じて荷動きは堅調であるが、その一方で価格転嫁には苦労している。自動車は台数がまあまあであり、加工の繁忙が続いている。ミルトラブルにより発注側が混乱し、余分に発注することのないよう注視する必要がある。
大阪	A	メーカーの強硬な値上げに対し、再販価格への転嫁がまったなしの状況である。需要が本格化していない中、厳しい折衝になりそうだ。
	B	中小の鉄骨造物件はそこそこの動きが続いている。また、季節的に公共土木工事も小粒の物件が多いが動き出してきた。戸建て住宅も大きな盛り上がりはないものの堅調な動きは継続している。ただ、如何せん中小物件中心の動きだけで数量的にトータルでみると盛上っているとは言えない。

広島		年末近くになり、地元自動車メーカーの金型向けや建機向けの仕事が多少動いてバタバタしたが、他の需要環境は改善の兆しもなく、販売数量は１割程度減少している。相場は特に逼迫している。酸洗鋼板、亜鉛鉄板を中心に薄中板は急上昇しており、他の形鋼、鋼管類を含め、最低１万円程度は値戻ししそうな雰囲気となっている。ただ、原料高を主因とした需要なき値上げの感は否めず、急騰の果ての反落や与信不安の増大に警戒しながら販売していきたい。
岡山		先の建築案件はあるが、足元、地元物件が少ない中、荷動きは良くも悪くもないと言った感じである。メーカーからの値上げが急でユーザーの理解が得にくい状況だが、丁寧に説明して理解して頂くしかない。市中在庫は少なめで推移している。
北九州		年明け後も目立った引合い増はなく、実需中心に堅調である。形鋼中心に在庫が少なく、歯抜けサイズもあり、仲間からまとまった引合いがある。価格も前月比２～３千円上昇している。メーカーの値上げ幅に追いついておらず、流通は先々の採算割れを懸念し上値追いの姿勢が伺える。値上げが遅かった熱延鋼板、軽量製品も上ってきた。
福岡		１２月度も年度末に向けての忙しさは感じられなかった。２０１７年度も先が見えない中、材料（ＳＵＳ、ＳＳ）の値上げ要請がどのように影響するか心配である。２０２０年のオリンピック開催に向けての特需に少し期待したい。大きな倒産の声は聞かないが十分注意して１件１件の案件をこなしていきたい。